

「田舎で創業したい人」と「全力で田舎を盛り上げた人」とでつくる「おしゃれな田舎」へ。

「おしゃれ田舎プロジェクト」では、「まちなかで商売をする商人たち」と「少数の行政マン」とで、「楽しみながら」をモットーに、小諸市のまちなかが地域の人にとって楽しいと思えるまちなかにすることを目的に、地域の人たちが出かけたくなる店舗を増やし、空き店舗解消に向けた支援と、人と人がつながるイベント等を開催しています。

■背景・目的とアプローチ

全国各地で、人口減少、少子高齢化などの課題を受け、賑わいを失いつつある「まち」が多くあります。長野県小諸市も例外ではなく、特に北陸新幹線の開通に伴い、それまで特急が停まり観光客等で賑わっていた小諸市の顔である小諸駅に特急が停まらなくなり、新幹線の停車駅が他市町村にできた影響は、賑わいを失うきっかけとして大きな要因を占めています。

数年前より、移住をキーワードに首都圏に住む方々



田舎で創業・起業したい人募集セミナー
(東京・有楽町)

まちむら発見①

若い世代が出かけたくなる楽しい「まち」へ

長野県小諸市 おしゃれ田舎プロジェクト



彩本堂 (サイフォンコーヒー専門店) オープン

の目が地方に向き始めてから、各地方が独自性を強めることでより多くの移住者を取り込もうと施策を講じてきました。

移住者に「選ばれるまち」として欠かせないことは種々ある中で、その中でも「活気があるまち」は選ばれる大切な要素といえます。賑わいが減り、空き店舗や空き家が増えていた小諸市が選ばれるには、活気を取り戻す必要があると感じ、活気を取り戻すためには、小諸市に住む方々が小諸を好きになる、楽しいと思えるまちになることが最も効果的な手段であると考えます。

そのため、「おしゃれ田舎プロジェクト」は、小諸市のまちなかが地域の人にとって楽しいと思えるまちなかにすることを目的に、地域の人たちが出かけたくなる店舗、特徴のある店舗を増やし、空き店舗解消に向

けた支援を展開することとしました。

地域の人たちが出かけたくなる店舗誘致として、まず実施したことは、空き店舗情報の収集です。地域内の不動産業者を通じて得た情報に加え、市場には出ていない潜在的な情報を得るため、一軒一軒訪問し、家主と交渉する中で情報を得ていきました。収集した空き店舗情報を持って、小諸市で出店していただけの方を募集するため、東京を会場にセミナー等を開催してきました。そのセミナー等の参加者が実際に小諸市内での出店に至ったり、今もなお、相談中の方がいらっしやいます。

小諸市のように「田舎」と呼べるまちで出店することとは、首都圏で出店するメリットとは異なり、店舗同士つながりや地域の人とのつながりが持ちやすいことが強み（メリット）と捉え、小諸市で出店を検討されている方に対し、呼び掛けをしてきました。

その甲斐があり、現在では市街地での出店者が増えるとともに、相談者も増え、地域からは「最近の小諸はよくなってきた」との声が広まっています。その結果として、空き店舗数を減らすことにつながっています。

おしゃれ田舎プロジェクトのメンバーは、プロジェクトの目的に想いを共にした仲間構成しています。まちなかを盛り上げるためには、当事者意識が重要と考え、既にまちなかで事業を営んでいる方をはじめ、関わり合いの強い方など、地域のことは地域の人が考えるスタイルの「地域コミュニティ」として位置付けています。そのため、代表者を設けることをせず、一人ひとりがプレイヤーであって、全員が同じベクトル



のきさきプロジェクトの様子



ASAMAYA MARCHE (アサマヤマルシェ) 開催

で行動することを共通認識としています。

■のきさきプロジェクト

新規起業者の支援を行う中で、起業したいと思っている人がいきなり店を構えるのはハードルが高すぎる…という課題もあることから、既存店舗の皆さんや、先輩起業者の皆さんの協力を得る形で、実際に店舗を構えているお店の時間外や定休日を利用して、ちよっと軒先を借りる感覚で店舗をお試して貸してあげよう！という「のきさき」プロジェクトという取り組みを今年の1月から始めました。小諸の街がどんな街なのか、雰囲気はどうか、客層はどんな人が多いのか、お試しで店舗を開いてみよう…というもので、既存店舗の有効活用や新規起業者と地域の人たちのつながりが生まれ、そこから新規出店に向けた相談につながっています。

■小諸覚醒を目指して

これまでの約3年間の活動から、徐々に不動産が動き始め、事業者と地域住民がそれぞれつながることで、地域の方から「楽しい」の声が生まれ始めています。そして、現在では小諸市内での出店希望者が急増する状態となり、まだまだ賑わいを生み出すことができると感じています。空き店舗の掘り起こしが完了していないエリアの情報を収集し、さらに出店希望者とのマッチングの成功数を増やし、人と人がつながり、地域の方が楽しめるまち、そして地域外の人を訪れたいと思うまちを目指して活動を加速していきます。

(おしゃれ田舎プロジェクトメンバー 小林秀行)